



東洋製作所は、
お客様の要望に
お応えできる
あらゆる熱環境を
つくりだし、
食の安全や
快適な生活環境、
地球環境保護に
貢献します。

CONTENTS

トップメッセージ	01
部門別事業の概況	03
東洋製作所のCSR活動 (エコ技術を活用)	05
NEWS!	07
こんなところにも東洋製作所! ...	08
連結財務諸表(要旨)	09
会社の概要	10

トップメッセージ



株主の皆様には、日頃より当社グループ事業へのご理解とともに厚いご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

ここに第73期上半期(平成23年4月1日~平成23年9月30日)における事業の取り組みおよび成果につき、ご報告をお届けいたします。ご一読いただければ幸いです。

平成23年12月

代表取締役社長

黒川英樹

Q 上半期の業績について お聞かせください

A 日本経済は、東日本大震災での停滞から抜け出し、回復基調にあるものの、米国債の信用不安、ユーロ圏の財政問題、アジア各国の金融引き締め政策等による海外景気の減速が、円高の長期化に拍車をかけ輸出企業の生産の海外移転が進行し、景気回復のペースは緩やかになっています。

このような状況のもと、不透明な景況を反映し各事業とも厳しい状況が続いております。売上は昨年より若干増加したものの、損益面では昨年、一昨年上半期と同様に厳しい状況となりました。

一方、受注は回復に転じ当上半期においてエンジニアリング事業、機器事業ともに回復基調に推移しております。大震災という中断があったものの、リーマン・ショック以降の不況から脱しつつあり、自動車業界、食品・低温物流業界の設備投資にも好転の兆しがうかがえます。

しかしながら、先に申し上げた通り、変わらぬ事業環境の厳しさと競争の激化により、当上半期の連結業績は、売上高8,451百万円（前年同期比5.9%増）、営業損失767百万円（前年同期は667百万円の損失）、経常損失786百万円（前年同期は686百万円の損失）となりました。

Q 下半期の取り組みについてお聞かせください

A 当社事業にかかわる各業界も、長引く不況からようやく脱しつつあり、自動車業界や食品・低温物流業界における設備投資意欲も回復基調に推移し、震災復興に向けた受注の伸びも現われつつあります。

こうしたなかで、当社は引き続きコストダウンと品質改善等体質強化に対する地道な努力を行うとともに、自然冷媒など環境対応技術力や省エネ技術などの強みを活かした分野に資源を集中し業績の回復を図ってまいります。

通期の見通し	通期(百万円)	対前期増減率
連結売上高	23,000	13.5%
連結営業利益	300	372.2%
連結経常利益	200	287.4%
連結当期純利益	120	△6.4%

Q 株主の皆様へのメッセージをお願いします

A 企業には社会貢献を意識した誠実な活動が求められています。当社グループは「環境との和」「人との和」「社会との和」の3つの和でCSR活動を推進しております。当社としての特長的CSR活動は、当社の総合力を活かした社会への貢献です。当社は、「冷熱プラントのエンジニアリング会社」であり、「機器製造会社」であり、「アフターサービス会社」でもあるという3つの側面を持っております。これら機能を一社で纏められる能力を生かして、社会に貢献できるチャンスが到来しつつあると考えております。この総合力を強みにして引き続き社会に貢献してまいります。

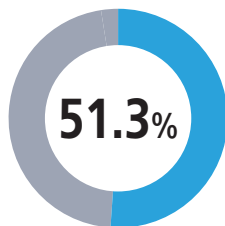
当社では、株主の皆様様に安定的な配当を継続することを基本に、財務体質の強化に向けた内部留保の充実も勘案した上で、成果の配分を行う方針としています。今回の第2四半期配当は、前期と同様引き続き実施を見送らせていただきましたが、期末配当については、前期同水準を維持し、1株当たり5円を計画しております。

株主の皆様におかれましては、今後とも当社事業の発展のためにご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

部門別事業の概況

エンジニアリング事業部門

売上高
4,480百万円



上半期の事業概況

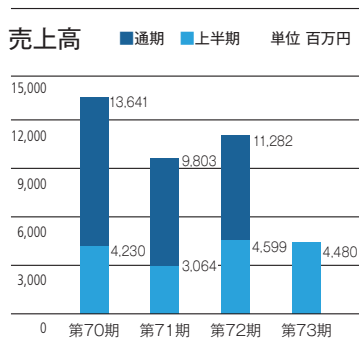
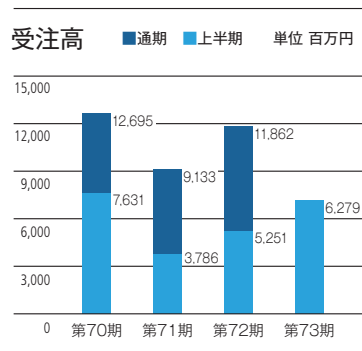
当上半期の当事業は、東日本大震災で被害を受けたお客様の冷蔵冷凍倉庫冷却設備、食品加工装置、自動車用環境試験装置などの復旧作業に努め、下半期についても引き続き支援を展開してまいります。

主な納入実績としては、自然冷媒（炭酸ガス/アンモニア）冷却装置「C-LTS」、水産加工工場用設備、飲料冷却設備、野菜凍結設備用熱源などが挙げられます。

受注面では、自然冷媒（炭酸ガス/アンモニア）冷却装置「C-LTS」、食品メーカー配送センター冷却設備、蒸気機関車排煙除塵設備を受注した他、海外の日系自動車部品メーカー向け環境試験装置などを受注しました。

製品開発面では、小ロット食品用冷却・凍結装置「サーモ・ウェーブ・ダッシュコンパクト」を市場に投入しました。

しかしながら、採算の厳しい物件があり、鋭意コスト低減に取り組んでまいりましたが、改善活動が一部未達となったことなどにより、当上半期におけるエンジニアリング事業の業績は、売上高は4,480百万円（前年同期比2.6%減）、営業損失609百万円（前年同期は559百万円の損失）となりました。



自然冷媒

FOCUS!

CO₂/NH₃二元冷凍システム



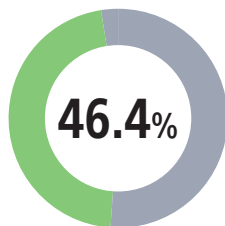
某飲料メーカーの食品工場へフリーズドライ用熱源設備としてCO₂/NH₃二元冷凍システムを納入いたしました。フリーズドライとは真空凍結乾燥という加工方法で、食品中の水分を凍結させ氷のまま蒸発させて乾燥させる方法です。その凍結させるための熱源として自然冷媒であるCO₂とNH₃を利用した冷凍機を用い、環境に寄与した設備となっています。

負荷に見合った最適な制御、高効率な熱交換器の採用等で、同社の既存設備よりもCOP^(※)が約20%向上しました。また併せて従来設備よりも省スペース化、工期短縮、アンモニア保有量を極力減らすことができ、お客様から大きな評価を頂きました。

※COPとは…成績係数。冷暖房器具のエネルギー消費効率をあらわす係数。

機器事業部門

売上高
4,049百万円

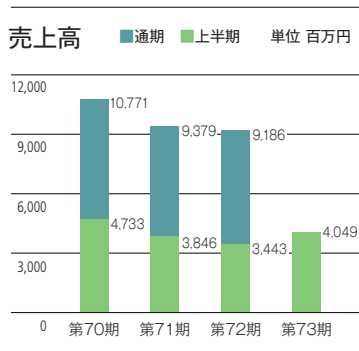
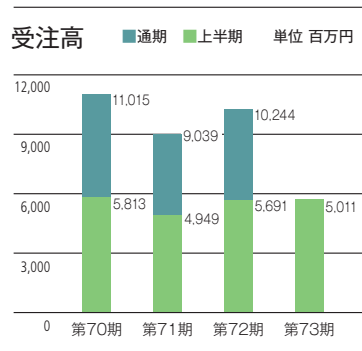


上半期の事業概況

当上半期における空調機器業界は、東日本大震災以降停滞していた経済活動の緩やかな回復は見られるものの、電力事情から仕様の変更・延期も多く、業界各社による受注獲得競争の激化という厳しい市場状況が続きました。

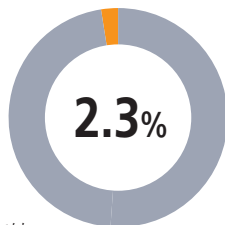
このような状況のもと、当事業部門は、地球温暖化対策や、各企業の省エネ製品に対する要望に応えるため、さらなる努力を続け、最新型直膨エアコン「ダブルDCダイレクトX」など高効率製品の開発・拡販に注力してまいりました。さらに、当事業部門の強みである生産から保守整備までの「生産」・「販売」・「サービス」一貫体制で、市場動向にすばやく対応した目細かな活動に取り組んでまいりました。

しかしながら、依然として自律的な回復を見せない日本経済のなか、顧客の投資抑制・機器延命の流れは止まらず、当上半期における機器事業の業績は、売上高は4,049百万円（前年同期比17.6%増）、営業損失165百万円（前年同期は114百万円の損失）となりました。



その他事業部門

売上高
203百万円



(注)「部門別事業の概況」に記載している全社売上高には、内部取引281百万円が含まれており、連結損益計算書の売上高とは一致していません。

新製品

FOCUS!



排熱を再利用する空調機 「冷媒再熱型除湿空調機」

高温・多湿の環境を空調する場合、取り入れた外気を冷却・除湿し、その空気を再度電気ヒーターで加熱するシステムが主流です。当社の「冷媒再熱型除湿空調機」は、除湿の際に発生する熱を再利用して加熱し、適切な温度で空調します。

このことで、電気ヒーターを利用した空調機と比べ消費電力を43%削減することができ、さらにインバータコンプレッサーによる室外機の容量制御によって高い省エネルギー性を実現しました。本製品は、結露防止、カビ・ウイルスの繁殖防止、錆防止、冷えすぎ防止に効果的で、今後病院や食品倉庫、オフィスなどに拡販してまいります。



東洋製作所のCSR活動(エコ技術を活用)

私たちは、冷熱・環境エンジニアリングの総合力を活かし、CSR活動を推進してまいります。

東洋製作所のCSRの考え

熱環境を極める企業として
エンジニアリング技術力で社会に貢献します

- 低温技術で「食の安全・安心」をつくりだし、豊かな食生活を支えます。
- 食品製造プロセスの温度制御技術を極め、「うまいものづくり」にチャレンジをします。
- 地球上のあらゆる環境を再現できる技術力で「ものづくり企業」としての製品の環境適応性評価を認証可能にします。

環境保全技術を駆使し「省エネルギー」と
「地球温暖化防止」に貢献します

- 二酸化炭素やアンモニア等自然冷媒を利用した冷凍・冷蔵技術で脱フロン化を推進し温暖化ガス排出を抑制します。
- ヒートポンプ技術で捨てていた排熱をリユース(再活用)し省エネを図ります。
- 二酸化炭素回収技術で大気中に排出される二酸化炭素を削減し温暖化防止を図ります。

「熱システムのライフサイクル」を推進し
より快適な生活環境づくりに貢献します

- 磨きぬかれた製造技術・技能で高品質な冷媒機器、空調機器をつくります。
- 国内21拠点のサービス網で、お客様のシステム運用をサポートします。



地球環境に優しい製品 C-LTSユニットが 「オゾン層保護・地球温暖化防止大賞」の 優秀賞を受賞

CO₂/NH₃自然冷媒システムC-LTSユニットが日刊工業新聞社主催「オゾン層保護・地球温暖化防止大賞」の優秀賞を受賞しました。「環境に優しい冷熱源システム」である自然冷媒の技術と、普及面での実績が高く評価されました。

本ユニットは、お客様の用途に合わせて7機種をシリーズ化していますが、今年に入りすべての機種に半密閉圧縮機^(*)を搭載しました。これにより、軸受けからのアンモニア漏れがなくなり、より安全な運転が可能となりました。また、製品の安全性をさらに高めるため、アンモニアの充填量を最小限におさえる改良が進められています。

東洋製作所は、お客様の要望にお応えできるあらゆる熱環境をつくりだし、食の安全や快適な生活環境、地球環境保護に貢献します。

※半密閉圧縮機…圧縮機と電動機を一体のケースに収めたユニットで、ケースをボルトで締め付けています。そのため、点検時には分解が可能です。



東洋製作所グループが目指すCSR

CSR(企業の社会的責任)とは、企業が事業活動において利益を優先するだけでなく、お客様、お取引先、従業員、株主様、地域社会などとの関係を重視しながら果たす社会的責任のことです。東洋製作所グループはコンプライアンスを幹として3つの「CSRの和」を育成していきます。

環境との和

環境技術で、地球温暖化防止など地球環境の改善を推進します。

●自然冷媒で脱フロン



C-LTS

●メンテナンス技術



フロン回収

●排熱の再利用



Mr.エコスチームMr.エコヒート

●CO₂の再利用



CO₂回収装置

●省エネ



新セーブ王

●ヒートポンプ技術



ダイレクトX

●環境活動の推進



ISO14001の取得

●資源の再利用



産廢の分別を徹底

コンプライアンスの幹

社会との和

独自技術の活用と積極的な社会貢献で、社会に信頼される企業グループを作ります。

●東洋の「技術」で社会貢献

●環境再現技術



環境試験装置

●食品倉庫



安全安心な食品の保存

●特殊冷凍技術



愛知万博(環境博)マンモス

●降雪技術



水族館・動物園の環境づくり

●製氷技術



ボブスレー・スケートリンク製作

●社会・地域へのお役立ち

●清掃活動



全事業所にて実施中

●緑の募金活動



植林活動支援

●エコキャップ回収運動



383.7kg
ポリオワクチン
191人分

人との和

次世代を担う人材の育成と、従業員の満足度向上に努めます。

●教育への貢献

●産学協同



人工雪結晶設備

●学校教育への協力



工場見学・インターンシップ

●OPEN FACTORY



従業員の家族を対象に工場見学

●従業員やその家族へ

●メンタルヘルス講習



●救命講習



●社内夏祭り





NEWS!

01

FOOMA JAPAN 2011 国際食品工業展

6月7日(火)から6月10日(金)の4日間、東京ビッグサイトにて社団法人日本食品機械工業会主催の「FOOMA JAPAN2011 国際食品工業展」が開催されました。今回当社は、「考えよう 美味しい未来と地球の未来～Green and Eco-tech TOYO～」をコンセプトに展示を行いました。会場には、小型改良後、今回が初展示となる「サーモ・ウェーブ・ダッシュコンパクト」、新型水ろ過システム「モノMAXフィルター」、自然冷媒冷却システム「C-LTS」や排熱回収ヒートポンプシステム「Mr.エコ ヒート」、さらに三菱重工製業務用CO₂給湯機「キュートン」、MDI製熱交換器「MDI」の実機を展示しました。



モノMAXフィルター



サーモ・ウェーブ・ダッシュコンパクト

02

東日本大震災被災地の 漁業復興に貢献

当社は、東日本大震災で被災されたお客様の復旧支援に全社をあげて取り組んでいます。復旧作業を進めるなかで、民間支援基金「希望の烽火^{のろし}」から、冷却設備製作の声がかり、東日本大震災の被災地である石巻、女川、気仙沼へ冷凍コンテナを納入しました。

「希望の烽火」は大手企業など18社の出資で7月に設立され、三陸海岸の主要産業である漁業の復興を支援しています。当社は、同基金の依頼で日本郵船殿のコンテナを大和工場にて改造し、2.8トン程度の魚を一度に凍らせることができる冷凍設備として納入しました。コンテナは高さと幅が2.5m、奥行きが6m、マイナス35℃で冷却が可能です。



冷凍コンテナ

こんなところにも
東洋製作所!

VOL. 3

名古屋市科学館 極寒の部屋(名称:極寒ラボ) 冷却設備工事

名古屋市科学館の「極寒ラボ」に「南極の寒さが体感できる」設備を納入しました。この「極寒ラボ」では、マイナス30℃の極寒の体験をしながら、いろいろな氷の実物や実験を見たり、極地について知ることができます。名古屋市科学館の一番の目玉である世界最大のプラネタリウムと並んで人気の体験型大型展示となっています。

「極寒ラボ」を見学するには、①まず更衣室で防寒服を着て、②次に体を慣らす温度調整室(マイナス10℃)へ移動し約3分待機、③次に極寒の部屋(主室マイナス30℃)へ移動し5分間見学し、④最後に後室(マイナス10℃)へ移動し3分見学します。トータル約15分程度で極寒体験ができる部屋になっています。

一般の冷蔵庫等とは異なり限られた空間に見学者が常に出入りするため、冷却設備の他に換気空調設備のノウハウも取り入れたユニークな設備となっています。

なお、同施設には当社の空調機「東洋コンパクトエアハン」も38台納入しております。



「極寒ラボ」入口

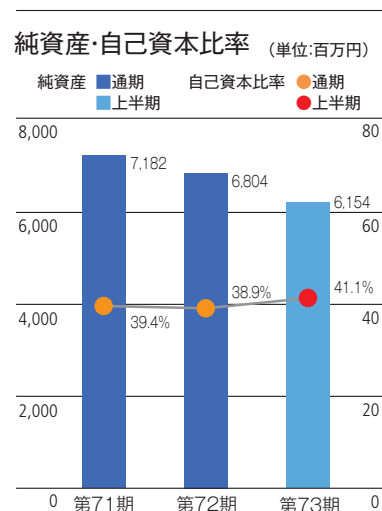
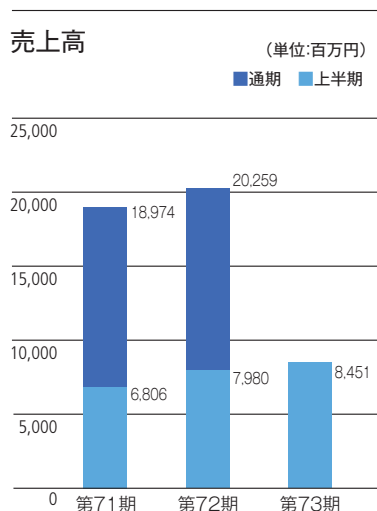
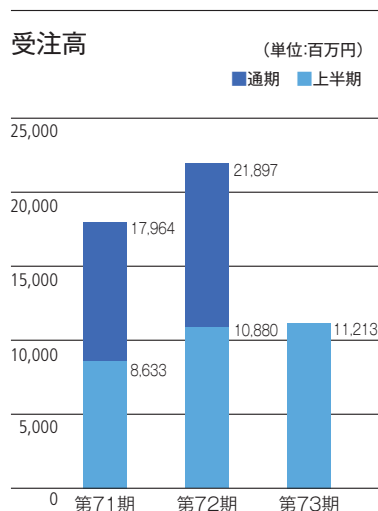


各部屋の見学の様子

連結財務諸表 (要旨)

科目	第73期第2四半期 平成23年9月30日現在	第72期 平成23年3月31日現在
資産の部		
流動資産	12,426	14,850
固定資産	2,517	2,608
資産合計	14,944	17,458
負債の部		
流動負債	5,647	8,107
固定負債	3,142	2,547
負債合計	8,789	10,654
純資産の部		
株主資本	6,071	6,709
資本金	2,334	2,334
資本剰余金	1,470	1,470
利益剰余金	2,473	3,119
自己株式	△ 206	△ 214
その他の包括利益累計額	76	85
少数株主持分	6	8
純資産合計	6,154	6,804
負債及び純資産合計	14,944	17,458

科目	第73期第2四半期(累計) 平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで	第72期第2四半期(累計) 平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで
売上高	8,451	7,980
売上原価	7,580	6,928
売上総利益	871	1,051
販売費及び一般管理費	1,639	1,718
営業損失 (△)	△ 767	△ 667
営業外収益	19	23
営業外費用	37	42
経常損失 (△)	△ 786	△ 686
特別利益	—	5
特別損失	—	66
税金等調整前四半期純損失 (△)	△ 786	△ 747
法人税、住民税及び事業税	16	15
法人税等調整額	△ 257	△ 210
少数株主損益調整前四半期純損失 (△)	△ 545	△ 552
少数株主損失 (△)	△ 4	△ 6
四半期純損失 (△)	△ 541	△ 546



会社の概要

平成23年9月30日現在

会社概要

社名	株式会社東洋製作所 TOYO ENGINEERING WORKS, LTD.
設立	昭和27年2月16日
資本金	23億34百万円
本社所在地	東京都品川区東品川四丁目11番34号
従業員数	715名(連結)
上場証券取引所	東京証券取引所市場第2部
証券コード	6443
会計監査人	新日本有限責任監査法人
関連会社	TOYO CR SDN. BHD. 株式会社トーマス 東洋エキスパート株式会社 東洋空調工程股份有限公司

経営体制

代表取締役社長	黒川 英樹	
取締役常務執行役員	山本 泰嗣	機器・大形冷機サービスカンパニー長兼サービス事業本部長
取締役執行役員	吉井 一	エンジニアリングカンパニー長
取締役執行役員	久良知 健	機器・大形冷機サービスカンパニー 副カンパニー長 兼機器事業本部長兼大和工場長
取締役執行役員	二見 昌明	管理本部長
取締役執行役員	赤間 正伸	エンジニアリングカンパニー 副カンパニー長
取締役	有原 正彦	三菱重工業株式会社 取締役執行役員 冷熱事業本部長兼名古屋冷熱製作所長
取締役	大谷 邦夫	株式会社ニチレイ 執行役員 事業経営支援部長兼経営企画部長
監査役	内海 昌彦	常勤
監査役	矢神 俊郎	三菱重工業株式会社 監査役
監査役	小口 正範	三菱重工業株式会社 資金部長

※上記以外、取締役を兼任しない執行役員は次のとおりです。

執行役員	渡辺 良介	管理本部副本部長
執行役員	岩尾 良雄	エンジニアリングカンパニー 副カンパニー長
執行役員	坂口 正友	エンジニアリングカンパニー 副カンパニー長
執行役員	田村 浩成	機器・大形冷機サービスカンパニー 機器事業本部副本部長兼機器営業部長
執行役員	鈴木 雅治	関西支社長

事業拠点



株式の概況

平成23年9月30日現在

株式の状況

発行可能株式総数	80,000,000株
発行済株式総数	22,296,204株
株主数	1,941名

●大株主

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
三菱重工業株式会社	8,295	38.73
株式会社ニチレイ	2,465	11.51
新菱冷熱工業株式会社	720	3.36
株式会社東洋製作所従業員持株会	593	2.77
日本スタートラスト信託銀行株式会社 (従業員持株ESOP信託口・75443口)	532	2.48
明治安田生命保険相互会社	350	1.63
岡崎 静 男	236	1.10
三菱商事株式会社	200	0.93
三菱UFJ信託銀行株式会社	125	0.58
堀 永 広 正	122	0.57

(注) 出資比率は、自己株式(1,411,566株)のうち、ESOP信託所有自己株式(532,000株)を除く、当社所有自己株式(879,566株)を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
同総会権利行使株主確定日	3月31日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社

(ご注意)

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。

同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.h.toyo-ew.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に掲載いたします。)

- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。
なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

■ 当社ホームページをご覧ください。

<http://www.h.toyo-ew.co.jp/>

東洋製作所

検索



株式会社東洋製作所

〒140-8635 東京都品川区東品川四丁目11番34号
ホームページ: <http://www.h.toyo-ew.co.jp/>
TEL 03-3474-2126 FAX 03-3474-2139

